

山陽小野田市 LABV プロジェクト 内閣府地方創生推進事務局長賞を受賞



左から株式会社合人社計画研究所山本職務執行者、淡野内閣府地方創生推進事務局長、藤田市長



複合施設完成イメージ図

■山陽小野田市 LABV プロジェクトとは

商工センター跡地を活用し、複合施設を整備するほか、そこから半径 1km エリアの複数の事業候補地で連鎖的に事業を実施し、居住・交流人口の増加やまちの活性化、エリア価値の向上を目指すものです。複合施設には市民活動支援センター、小野田商工会議所、山口銀行小野田支店、山口東京理科大学の学生寮などを整備し、令和 6 年(2024 年)からの供用開始を目指しています。

LABV とは、自治体が市有地を現物出資し、民間事業者等が資金出資してつくる事業体が、公共施設と民間収益施設を複合的に整備・運営する事業手法で、全国でも先進的な取組です。内閣府・地方創生 SDGs 官民連携プラットフォームでは、SDGs の達成や地域課題解決等に向けた官民連携の取組の普及・発展に向けて、優良事例を選定しており、今回「山陽小野田市 LABV プロジェクト」の取組が、最高賞である「内閣府地方創生推進事務局長賞」を受賞しました。

2月7日、東京都大手町で開催された「地方創生 SDGs 国際フォーラム 2023」にて表彰式が行われ、藤田剛二市長と山陽小野田 LABV プロジェクト合同会社の代表社員である株式会社合人社計画研究所の山本計至職務執行者が出席しました。

表彰した淡野博久内閣府地方創生推進事務局長は「老朽化した公共不動産の有効活用という地域課題への解決策を模索する公共団体において、本事例を参考にした取組が進められることによって、今後全国で持続可能なまちづくりの取組が加速していくことを期待する」とコメント。また、受賞にあたり藤田市長は「素晴らしい賞をいただき、関係者のみなさまに心から感謝申し上げます。同じ課題を抱える他の自治体への横展開が期待できる取組として評価されたものと考えており、この期待に応えるべく、引き続き、関係者一丸となってプロジェクトを推進していきたい」と述べました。